

事務事業名	商店会街路灯設置支援事業				担当	産業環境部 商工観光課 商業係			
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり				電話番号	0285-83-8643		
施策名	2	商業の振興				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	真岡市街路灯設置補助金交付要綱					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和49 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	7. 商工費	1. 商工費	2. 商工振興費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	商工業振興の一環として、商店会または管理組合を組織し共同で街路灯を設置しようとする場合に助成する。なお、前年度までに街路灯設置の希望がある商店会等を把握して予算化し街路灯設置補助金交付要綱に基づいて助成している。 ・対 象：商店会や商工業者等で、一地域20灯以上を連たんして設置する場合 ・補助額：総事業費の30%以内で1基あたりの限度額12万円（平成18年度に要綱改正）								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 22年度実績 平成22年度の新規街路灯設置はなかった。 23年度計画 平成23年度は街路灯設置の予定がない。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 補助金額	千円	2,880	0	0	0	0
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 街路灯設置商店会又は管理組合	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 街路灯を設置した商店会又は組合数	組合	12	12	12	12	13
	イ 街路灯設置数	基	24	0	0	0	0
	ウ						
	エ						
	オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 当該地域が連帯意識を持ち、明るい商店街の形成を図る。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 街路灯の設置累計	灯	541	541	530	526	630
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 身近な生活圏での商業・サービスの確保することにより、商工業の振興を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
	ア 商品販売額(卸売業・小売業)19商業統計	万円	13,604,234				
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						

(2) 総事業費の推移				単位	19 年度(実績)	20 年度(実績)	21 年度(実績)	22 年度(実績)	23 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	2,880	0	0	0	0
			事業費計 (A)	千円	2,880	0	0	0	0
	人件費		正規職員従事人数	人	1	0	0	0	0
			延べ業務時間	時間	8	0	0	0	0
			人件費計 (B)	千円	34	0	0	0	0
			トータルコスト(A)+(B)	千円	2,914	0	0	0	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市内商業者が連帯意識を持ち、明るくて魅力ある商店街の形成を図ると共に商業の近代化を促進するために昭和49年から支援した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	県内各市の状況等を参考に、交付基準を1基当たり事業費の30%以内で限度額を12万円と定め、街路灯設置補助金交付要綱を改正した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 明るい街並みや商店会の近代化を促進しているので、市の政策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 明るい街並みの商店街形成は、景観の保持や防犯にも繋がるため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 明るい街並みの商店街形成は、景観の保持や防犯にも繋がるため適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 商店会等からの要請により補助している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 街路灯設置による商業環境改善整備は多大な費用が掛かるので、市の支援を廃止又は休止すると商店会の活性化や近代化に影響がある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 補助割合と補助限度額が要綱で決まっているので、削減余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 補助金交付事務等で市の人件費は最小限であり、削減困難である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 街路灯設置費の 1 / 3 を補助するものであり、残り 2 / 3 は各商店会又は組合で負担しているので適正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 電球を L E D に切替える（省エネ）際の補助のありかたを検討すること。																							
(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							